

森のおくりもの3月



テングチョウ ( タテハチョウ科テングチョウ亜科 )



3月に入ると、木の芽がわずかずつですが膨らみを増し、色も濃くなってきているようです。冬鳥たちの色もだんだん濃く鮮やかになってきています。風の当たらない陽だまりでは、成虫で冬を越した蝶が飛びだし、咲きはじめて花にはアブなどもやって来て、クモの仲間は草や土の上を歩き回っています。野山を歩いた時に、生き物が動いている姿を目にする機会が増えてくると楽しくなってきました、こちらの身体や足取りも軽くなってくるような感じです。

春をみつけに森を歩いてみませんか。

【写真・文 早坂 徹】

# そろそろ日向ぼっこ姿が シータテハとキタテハ



日差しが暖かくなるころ、成虫で越冬していたチョウたちが、どこからともなくやってきて日向ぼっこをしている姿が見られるようになります。白い色が好きなのか、地面の平たい白い石の上や木橋などで見かけます。今回はその中でも一見似ている**シータテハ**と**キタテハ**を比べてみましょう。

【キタテハ】



小さい紋がある

黒紋の中に青色鱗粉がある

へりの帯がはっきりして

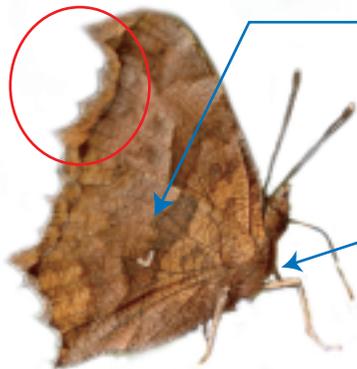
（おもて）

【シータテハ】



黒い紋がでる

翅（うら）翅を閉じると枯葉そっくり！

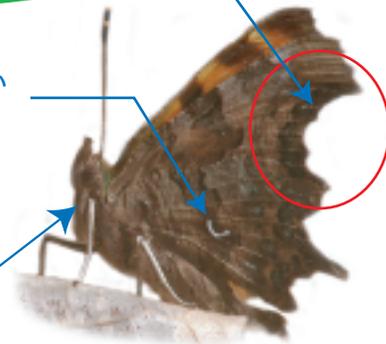


「く」の字に見える白い模様が両方にあるが、シータテハの方が少し大きく、はっきりとしている。

前脚

■脚

4本に見えるが、折りたたんだままの前脚があり6本。前脚の先端に感覚毛があり、味を感じることができる。産卵する時に幼虫の食草に前脚を伸ばして触って確認するようだ。



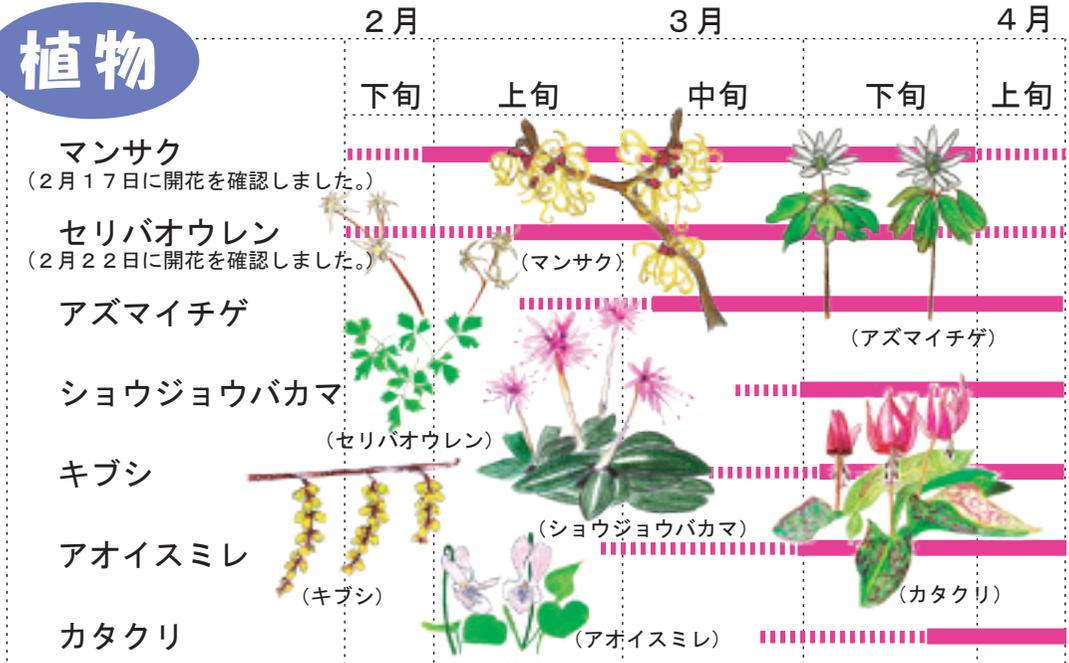
切れ込みが深い

キタテハは平地でシータテハは高所で棲み分けていると言われていますが、観察の森では両方見られます。日向ぼっこをしているチョウを見つけたら観察するチャンスです。すぐには逃げないので、ゆっくり近づいてじっくりと観察してみてくださいね。

【レンジャー：黒川周子】

# 3月の生物ごよみ

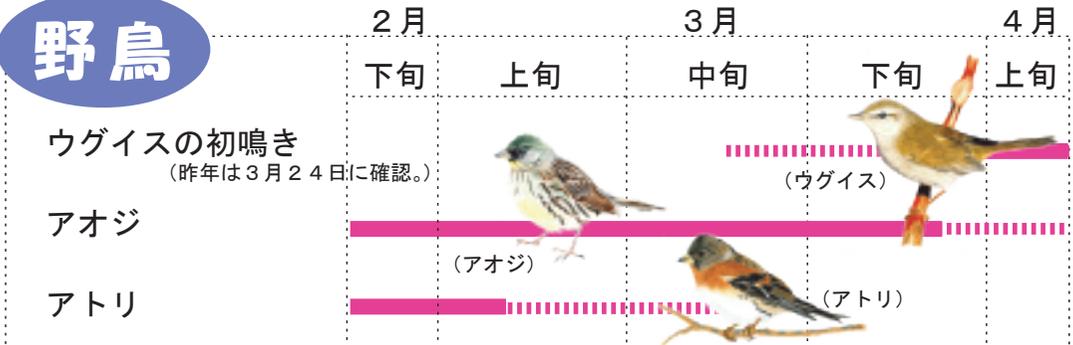
## 植物



今年は平年より雪が少なく、2月の観察の森はいつもと様相が違い、雪に覆われることなく地面がむき出しになっています。そんな中で春一番に咲く『マンサク』は2月17日、『セリバオウレン』は2月22日に開花の確認が出来ました。特に2月後半からは暖かい日が続き、市道ではオオイヌノフグリが一面に咲いていました。また3月2日にはやすらぎの道でマルバダケブキやカタクリの葉が顔を出していました。

春の暖かさと共に野鳥たちも少しずつ賑わいを増し、ヤマガラやシジュウカラなどのさえずりがあちらこちらから聞こえてきます。春の訪れを告げるウグイスのさえずりが聞かれるのは3月後半になります。また3月は渡り鳥たちの移動の季節でもあり、冬鳥として来ていたカシラダカやアトリたちも3月中半からは見られなくなります。

## 野鳥



【レンジャー：齋 正宏】

## 森のことは

自然の様子やできごとを四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします

### 『盲亀浮木（もうきふぼく）』

鳥がさえずり、マンサクやセリバオウレンが開花するなど、春の便りが届き始めました。早く暖かくなればいいなあと思っていましたが、3月になって寒いのもあとわずかだとわかると、冬の美しい光景が名残惜しく感じます。

人間にとっても冬の寒さは厳しいのに、森の生き物たちが冬を過ごし命を繋ぐのは当たり前のことではなく、大変難しいことです。そう思うと無事冬を乗り越えた姿に出会えて感慨深く感じます。

そのようなことに当てはまる言葉を調べていたら『盲亀浮木』という言葉を知りました。「大海の底に目の見えなくなった老海亀が棲んでいて、百年に一度海面に浮上する。穴がある浮き木が海を漂っているが、この亀が浮かび上がって来た時、その穴に偶然首を突っ込む」という寓話から、そのくらい希少なことだという例えで、「人間に生まれることはこれよりも更にあり得ない難しいこと」という仏教の教えです。そこから「出会ったり物事が実現したりすることが極めて難しいこと」という意味があります。“あり得ない難しいこと”は古語だと「有り難し」で、これがありがとうの語源だそうです。

春になるとウキウキするのは、無事冬を越せたことに感謝して嬉しくなるからなのでしょう。3月9日は“サンキュー”の語呂合わせからありがとうの日。3月は様々な場面でありがとうの想いが溢れています。

春からまた季節が廻ります。素晴らしい自然の光景を大切に感じて、皆さんに伝えていきたいと思います。

【レンジャー：新田隆一】



# 森の「おとしもの」



## その11 「冬の飾り羽」

ダイサギの飾り羽を2月15日に拾いました。レース状の軽くて細くてとても繊細なつくりです。かすかな風にも優雅に揺れ、まるで蕨(みの)をまとっているようなので「蕨羽」とも呼ばれるとか。いつまでも眺めてさわったりして早くも「今年拾った羽MVP」です、まだ3月なのに。この飾り羽というのは繁殖期に雄が雌にアピールするための役割を果たします。つまり“長く伸びた飾り羽を美しく保つには時間をかけて羽繕いする必要がある”ので、美しい羽はそれだけ余裕がある(優秀な雄)というメッセージになる”とのこと。

ダイサギは全長およそ90cm、翼を広げると130cm前後と白いサギの仲間では最大級の大きさです、ちなみに白いサギには大きい順にダイサギ・チュウサギ・コサギとわかりやすい名前がついています。さて、ここからややこしいのですがダイサギには厳密には夏に繁殖のためにやってくる「亜種チュウダイサギ」と越冬でやってくる「亜種ダイサギ」がいます。センター周辺では大きいサギを昨年12月から頻繁に見かけるようになったので最初は亜種ダイサギの落とし物かと思いましたが調べると日本で越冬するチュウダイサギもいるようです。そもそも飾り羽は繁殖期(4月から9月頃)のものなのになぜ2月に落ちていたのでしょうか?落とし主は日本で越冬の繁殖を控えた亜種チュウダイサギの雄?と考えていますがダイサギの生活史についてまだまだ分からないことが多いようです。

【レンジャー：木田秀幸】



チュウダイサギ(昨年12月策側にて)

# 3月

## のイベント&お知らせ



### ◆おはよう野鳥かんさつ

春の森を歩きながら講師と一緒に野鳥の声と姿を探します。

【日 時】3月16日(土) 午前6時半～8時

【持ち物】あたたかく歩きやすい服装、観察用具(双眼鏡の貸出あり)

※申込み不要です。開始時刻までに観察センター前までお集まりください。



### ◆早春の植物観察会

森を歩いて春の草花を講師と共に観察、解説してもらいます。

【日 時】3月30日(土) 午前10時～11時半

【持ち物】歩きやすい服装と靴

【定 員】20名

【申込み】3月6日(水) 9時より電話受付



### ◆「小鳥のレストラン」終了間近!

えさ台に集まる野鳥をあたたかい部屋の中から観察できます、3月31日まで。

### ◆ガイドウォークは3月まで午前1回です。

3月まで午前10:00～11:30のみの開催です。(4月より午前と午後の二回)

お間違いのないようお越し下さい。



毎週  
日曜は

### 『ガイドウォーク』の日!

3月の開催日は

**3日、10日、17日、24日、31日**

今月のテーマは **「春をさがしに」**

開催時間: 午前 10:00～11:30

◆3月31日は「館長と森を歩こう」です

**森のちいさなアトリエ**

準備してある材料を使って、誰でも自由にクラフトが作れます。  
3月は切り紙あそび

工事のため小鳥の森は3月31日まで、ヤマツツジの丘～ヨシの湿地への橋はしばらくの間通行止めになります。

**3月の休館日**

4日、11日、18日、25日

#### 宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
  - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
  - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- 【行先】①②③ 「太白団地経由山田自由ヶ丘車庫行」乗車  
(※③のみ乗車可「太白団地・山田自由ヶ丘経由山台南ニュータウン行」)  
いずれも 公営アパート前 下車→ 徒歩15分

#### お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。  
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター

#### ♪森へおいでください♪



自然観察の森の最新情報、  
「森のおくりもの」バックナンバーは  
Webで!

2019年3月号(毎月1回5日発行)

発行:(公財)仙台市公園緑地協会

編集:仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター

〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森36-63

Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

「社のひろば」URL: <http://www.sendai-park.or.jp/web/info/taihakusan/index.html>